最近おもうこと

Created by Wataru Nishino 10/12/06

ほめて元気を育てよう

先日、「走る新聞社」を自称する竹原信夫氏の公演を聞く機会がありました。竹原氏は約5,000社もの元気な中小企業を徹底取材し、月刊紙「日本一明るい経済新聞」を自らの取材と編集のもとに発行し、現在購読数約３０，０００部を数える新聞へと成長しています。

竹原氏はもともと大手の新聞社に勤めていたのですが、日本の大手マスメディアというのは先行不安になるような悲観的な暗い話題や大企業の話題ばかり大きく取り上げることに違和感があり、中小企業を中心とした明るく元気になるような話題を提供したいとの思いから独立し、産業情報化新聞社を開業された方です。

以下、公演内容を要約します。

明るい情報を発信すると明るくなり、暗い情報を発信すると暗くなるもの。例えば「あかん」「厳しい」を１００回言って、もっと厳しくなることはあっても改善することはない。現在の不況は心の不況である。

元気な社長さんは、あまり本を読まずに、足で現場の生の情報を取りにいく。「よそと違うことしませんか」がキーワード。以下は、取材で見つけた元気な社長の共通点の、あいうえおと番外編を要約しました。

あ：明るいこと　ネアカとは違う、明るく振舞うよう顔の表情にまで気を遣う。社員や取引先は、社長の表情を敏感に感じムードも変わるもの。社長の顔色みれば元気な会社かどうかよくわかる。

い：意思が強い　「もーあかん」と思えばほんとにダメになる。壁にぶつかり乗り越えてさらに強くなる。ピンチこそチャンスで、土壇場に追い込まれたとき程アイデアが生まれる。アップル社は、業績不振から立ち直って今世界で一番元気な会社に生まれ変わった。松下幸之助さんの成功する秘訣は「成功するまで止めないこと」。

う：運が良いと思い込む　成功した社長さんは「自分は時代の流れに乗っただけ、運が良かった」と必ず言う。運がいいと思い込めば、元気もついてくる。交通事故で足の骨を折った社長　Aさん「自分はなんと運が良かった、頭打たずに足で済んだ」　Bさん「自分はなんと運が悪い、こんな事故に会うとは」。Aさんはプラス思考、Bさんはマイナス思考、プラス思考には強運もついてくる。

え：縁を大切にする　アメリカの資本主義は、損得だけの自己中心的な資本主義。日本の資本主義は、情と徳を大切にして発展した資本主義。ある中小企業の経営理念「経営は損得にあらず」。仕入先が困っているときに手形払いを現金払いに変えた、あるとき、材料が不足したときにその仕入先は材料を優先して納入してくれ、売上増大に貢献してくれた。

お：大きな夢を常に持ち続ける。

番外編：・靴、スリッパがキチンと並べられている。・トイレの便器が真っ白でいつもピカピカ。・社長の出勤時間が早い。・夫婦仲がよい。・社員やお客様に感動を与える。

最後に、竹原氏が強調していたのは「ほめて元気を育てよう」です。私の好きな言葉で「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」という、連合艦隊司令長官だった山本五十六の語録があります。前半３つのフレーズは会津藩主であった上杉鷹山の語録を引用したもので、それに「ほめてやらねば」を山本五十六が付け加えたといわれています。

心を持つ人間に熱意をもって動いてもらうには、ほめてその気にさせることも重要であることを言っています。プロ野球の一流選手がチャンスでバッターボックスに立つ前に監督から耳打ちをされ、期待通りヒットを打つというシーンを見ることがあります。後のインタビューで「あの監督の一言で気分が楽になりました」。一流のプロ選手でさえここ一番は監督の一言によって奮起し、あるいはリラックスして結果を出す、それだけ人間は精神的な面が大きいといえます。本人をその気にさせ力を引き出させるのが上手な指導者、あるいは経営者といえるかも知れません。

私は立場上経営者の社員に対する愚痴を聞くことも多々ありますが、違和を感じることもあります。「言って聞かせて」「させてみて」、やらないので愚痴を言う。になっていないか？

２０１０年１２月　西野　律